

産学医福農連携によるケアファームを通じての地域活性化取り組み事例
- 参画団体の連携におけるメリットと今後の課題について -

○佐々木 公之 (中国学園大学)
大田 住吉 (摂南大学)

1. はじめに

本研究は、岡山県内を中心に、医療機関、介護老人保健施設、農業ビジネス法人、ホームセンター、中国学園大学（以下、「本学」）の5者が一体となり展開された介護老人保健施設でのケアファームづくりプロジェクト「まびファーム事業」（倉敷市真備町）を通じて地域活性化実践事例と参画団体の連携におけるメリットと今後の課題について考察するものである。

2. 本研究の概要

一般財団法人倉敷成人病センター（以下、「K病院」、図表1）は、1971年設立。生活習慣病など一般的な慢性疾患からロボット手術等の先進医療を行い、海外3カ所でクリニックを経営する国際的な医療機関。地域医療にも積極的で、出産分娩取扱件数は中国地域でNo.1を誇る[1]。

K病院経営陣は、関連施設である介護老人保健施設ライフタウンまび（以下、「L施設」、図表2）にある耕作放棄地にケアファームの開園を検討していた。[2]ケアファームとは、介護と農場を合わせ持つ施設で、認知症、精神疾患、発達障がいの子もたちなどのデイサービスを提供している農場のことである[3]。西欧では、農業のセラピー（癒し）効果や動物の飼育に注目するケアファームが盛んであり[4]、2,500施設以上(2008年現在)のケアファームが存在する。特に、オランダは、欧州の中でも在宅医療・介護が最も充実しており、ケアファームについても10年以上前から様々な政策が繰り出されている。医師からも、利用者が農業・動物の世話など通じて、『自己肯定感』『生きがいができる』ことで『感情コントロール』に効果的であり、支援に役立つと言われながら、日本ではケアファームの機能を備えた介護老人保健施設は極めて少ないのも現状である[5]と、指摘されている。

K病院の経営陣は、L施設の将来を見据え、「真備町発 CCRC (Continuing Care Retirement Community)、継続的なケア付きの高齢者たちの共同体、注」を実現するためにも、永年にわたりL施設隣接の約2,000㎡の耕作放棄地(写真3)に、農業・動物セラピーなどを取り入れた、ケアファーム開園を検討していた。K病院は、ケアファームを開園するにあたり、単に農業・建設等の専門業者に委託するのではなく、地域に愛され支持されるよう、「みんなで作る」をコンセプトに、K病院、L施設のスタッフのほか高齢者から地域の学生、子どもたちまで全員が「ケアファームづくり」を通して体験する「場」として、世代間を越えた交流を図る

図表1・写真1 K病院の概要

項目	詳細
病院名	一般財団法人倉敷成人病センター
本社所在地	岡山県倉敷市白楽町250
設立	1971年7月
理事長	高本 均
診療科	内科・肝臓病治療センター・リウマチ膠原病センター・透析センター・婦人科・産科（周産期センター）・体外受精センター・小児科・外科・整形外科・泌尿器科・眼科・皮膚科・麻酔科・放射線科・病理診断科・内視鏡センター・内視鏡手術センター・MIS・人工関節センター・歯科
全従業員数	864名（正社員） 嘱託・パート：310名（28年7月現在）
関連会社	健診施設 倉敷成人病健診センター（倉敷市白楽町） 介護老人保健施設 ライフタウンまび（倉敷市真備町） JGH（Japan Green Hospital Pte Ltd） *JGHシンガポール、JGMCLONDON・SGC上海
特徴	・生活習慣病など一般的な慢性疾患からロボット手術など先進医療 ・中国地区No.1のお産実績（約1,000件） ・2004年センター棟を「ホスピタリティ」をテーマに新築 ・入院患者全室個室（室料差額なし）

図表2・写真2 L施設の概要

項目	詳細
施設名	介護老人保健施設 ライフタウンまび(L施設)
本社所在地	倉敷市真備町新田1130
設立	1997年12月
施設長	桑原 一朗
主なサービス内容	・入所サービス (長期滞在による介護・看護・リハビリ等のケアサービス) ・短期入所サービス (短期滞在による介護・看護・リハビリ等のケアサービス) ・通所サービス (ご自宅での生活を継続しながら、機能訓練・入浴・食事・レクリエーション・機能訓練等のサービスを提供) ・居宅介護支援センター (ご自宅での介護サービス) ・倉敷市真備高齢者支援センター (倉敷市から委託を受けた高齢者の方の総合相談窓口)
全従業員数	約100名(正社員・嘱託・パート含む)

ことを検討していた。K 病院の経営陣は、親交のあった大学教員（代表著者）に相談し、両執筆者が共同研究と以前、コンサルティング実績があった岡山県津山市に本社を置くホームセンターを営む㈱ナンバ（以下、N 社）と、代表筆者の大学教育に関係し、N 社の取引先でもある農業ベンチャーの㈱マイファーム（京都市下京区）を紹介され、2016 年 7 月ケアファームづくりプロジェクト「まびファーム事業」がスタートした。

本研究では、ケアファームづくりプロジェクト「まびファーム事業」開始から 1 年半の取組み事例（写真 4・5）を通じての地域に及ぼす影響と産学医福農連携として連携を行う 5 者間のそれぞれの取組みにおけるメリットおよび今後の課題について考察を行う。

写真 3 L 施設の耕作放棄地（2016 年 6 月）



写真 4 農園整備作業（2016 年 7 月）



写真 5 IT 企業から馬の寄贈（2017 年 3 月）



【注】

K 病院の経営陣は、L 施設の将来像として、「真備町発 CCRC」として、「継続的なケア付きの高齢者たちの共同体」となる福祉施設を目指している。

CCRC は、定年後の高齢者を対象とする米国の医療・介護制度で、元気なうちに地方に移住して自立した生活をし、必要に応じて介護・看護・医療などのサービスを受けながら共同生活を送る拠点施設である。発祥の米国では、既に約 2 千カ所の施設に 75 万人余が暮らしている。[6]

また、2014 年に内閣に設置された「まち・ひと・しごと創生本部」は、「生涯活躍のまち（日本版 CCRC）構想」として、「東京圏をはじめとする地域の高齢者が健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができるような地域づくり」を目指すもの、としている。

そして、構想の意義としては、①高齢者の希望の実現、②地方へのひとの流れの推進、③東京圏の高齢化問題への対応、の 3 つの点が挙げられる[7]。

【参考文献】

- 1) 一般財団法人倉敷成人病センターのホームページ,<http://www.fkmc.or.jp/>,2017.10.17 取得。
- 2) 介護老人保健施設ライフタウンまびのホームページ,<http://www.fkmc.or.jp/ltwn/>, 2017.10.17 取得。
- 3) 中国四国農政局 HP, <http://www.maff.go.jp/chushi/index.html>, 2017.10.17 取得。
- 4) Care Farming UK のホームページ,<https://www.carefarminguk.org/>,2017.10.13 取得。
- 5) 小谷信行「文化を創る三世交代」(平成 28 年 4 月 12 日倉敷成人病センター主催)の講演資料より。
- 6) 小口正貴(2015)「注目高まる日本版 CCRC、新ビジネスを考える手段にせよ」, 2015.5.25 発行,<http://techon.nikkeibp.co.jp/article/FEATURE/20150522/419642/?ST=tomict>, 2017.10.17 取得。
- 7) 日本版 CCRC 構想有識者会議(2015)「生涯活躍のまち」構想（最終報告）,
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/meeting/ccrc/h27-12-11-saisyu.pdf>, 2017.10.23 取得。